

学校改革プロジェクト支援事業 平成26・27年度モデル校
「成果報告」

熊本県立荒尾支援学校

本校は平成26年から2年間、学校改革プロジェクト支援事業のモデル校として学校改革に取り組んできました。2月4日(木)に熊本テルサにて、モデル校として成果報告をさせて頂きましたが、その内容を要約して再度ご報告いたします。

まず、本校は本誌上でもこれまで度々してきました通り、平成23年度より研究を中心に据えた学校改革に一部着手してきました。当時本校に着任されたばかりの和久田恭生校長の下、教職員の意識改革として、小・中・高等部一貫校として「学習の系統性・一貫性」の担保、そして専門性の向上と教員間の実践を通じた学び合いの機会として、一人一事例の研究実践と職員全員によるポスターセッションを実施してきました。

そして平成26年度からは、中山龍也校長の下、本校の組織はさらに深化してきました。図1は、2年間における本校の4つの改革を示しています。校務改革として、①職員会議の原則廃止・週4日のノー会議デー、②2学期制の導入、授業改革として、③研究実践、④専門性の向上のための取組です。

本校の改革は、中山校長が示された「経営方針5S」に基づいて取り組みました。

校務改革の詳細は、図2で示したとおりです。校務改革は、「Slim」・「Simple」をキーワードに取り組みました。結果は、会議の削減や2学期制の導入で「職員会議の開催回数は適量」、「職員のゆとりをもった仕事」、「業務量は適切」などのアンケート項目で上昇が見られました。そのことで生み出された時間の余裕が、授業づくりのための効果的な話し合いや教材研究のための時間の充実へとつながり、「生徒と向き合う時間の確保」、さらには「活動しやすい週時程」、「落ち着いた学校生活」、「生徒の学力を向上させる授業」の向上につながっていきました。

つぎに授業改革では、「経営方針5S」の「Steady」・「Speedy」・「Safety」に基づいて取り組んできました。改革の詳細は次ページの図3に示すとおりです。支援学校では、ほとんどの授業がT.Tで行われるために、児童生徒の実態や授業に使用する教材など様々な情

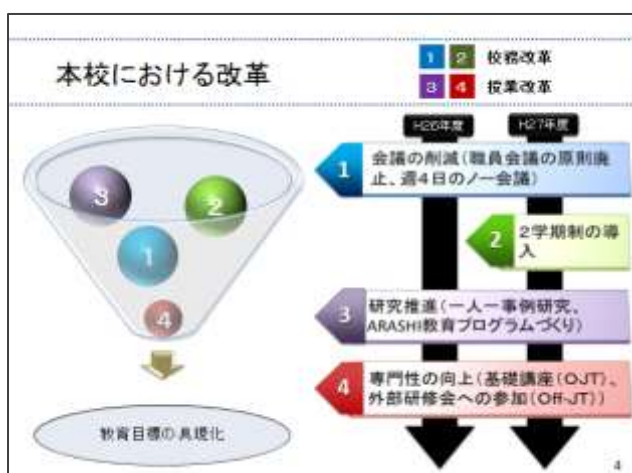


図1

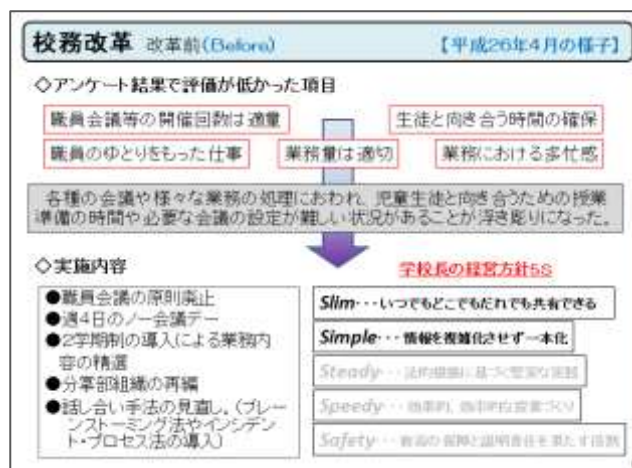


図2

報を整理し、共通理解を図る必要があります。現在、本校が研究テーマに掲げている「ARA・SHIの教育プログラム」づくりも、これまで積み上げてきた教育内容を言語化し、様々なツールの開発によって教育内容の全体像を可視化することです。

図4では、その一例として本校小学部一般学級の教育プログラムの概要を示しています。本校では、来年28年度1月下旬に公開研究発表会を実施いたします。ここでは、本校の教育内容の全体像を明らかにし、さらに4つの学習グループの実態に合わせた、それぞれS(小学部)・C(中学部)・K(高等部)・T(重複学級)の4つのスタイルの詳細を公開したいと考えています。

本校は平成25年度に実施した公開研究会に於いて、シンポジストの皆さん及び参加者の皆さんと一緒に、本校が目指す未来像を作成しました。(図5)

本校が目指す、「人が変わっても、変わらない教育の質を提供できる学校」を創り上げるために、今後も職員一同知恵を出し合っ、夢を語り合える学校、夢を実現させる学校として、荒尾支援学校をさらに発展させていきたいと思っています。

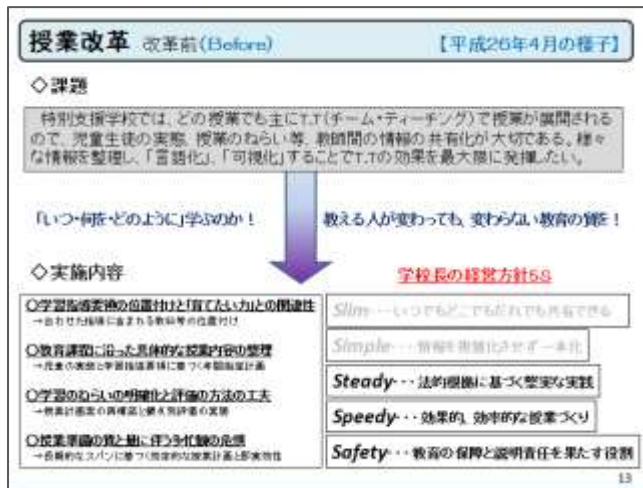


図3



図4

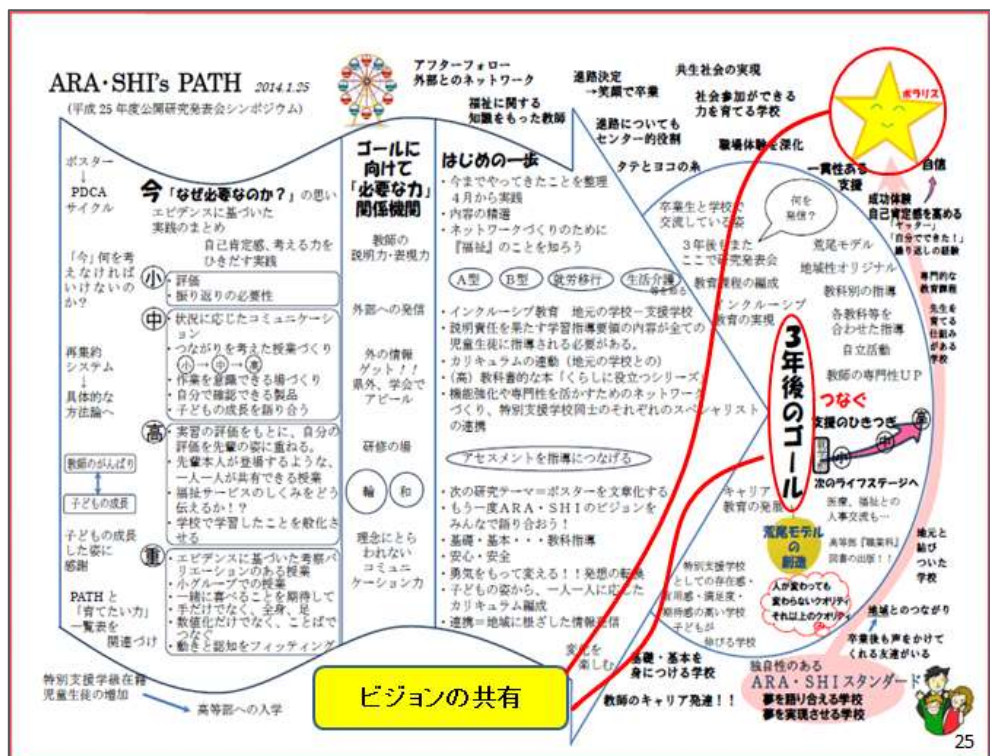


図5